

掌中發句五百題

全



掌中發句五百題

春秋菴白雄 著

春之部

元日 えりや神代の事もおもをり 守武

門松 力もりの為ふも志をこし 門の雲 去来

蓬萊 蓬萊ふ見返かゝるをてたさよ 山店

今朝春 袖すりよ松の葉繁る今朝の春 梅舌

立春 春をふみやと釣の蒼の額つさ 一髪

若水	若水やふく美しん	為水	水仙
初日	湯色や大土番のさる日記	任行	任行
花春	美の妻連舟さる後や古袴	文鱗	文鱗
万歳	糸菜や左ふひひけて松の糸	去来	去来
初空	さる空や鳥とのさる牛の鞍	嵐雪	嵐雪
著初	母うさふ紋さるしや着そ神	山蜂	山蜂
初夢	さる夢や濱名の橋結今のさる	越人	越人
幽朶	うさる白もさるら於神の厩さる	胡及	胡及

子曰	生親根よ松させや幣さる子の日	観水	観水
小松引	吹くや小松引形もの繋糸さ馬	重政	重政
若菜	初市や雪よ漕来るさる菜船	嵐蘭	嵐蘭
七種	七種やあさるさるあさる明鳥	其角	其角
薺	あさる色や薺溢るさる土さる所	嵐雪	嵐雪
芥	芥搦とてあけて酒あさる瓢さる	且藁	且藁
梅	灰捨て白妻うさるさる垣根う所	丸兆	丸兆
紅梅	紅梅の日に馴て糸の糸さるさる	如行	如行

柳

源より鞠うらむ 柳う那

柳梅

朧月

朧と月松の悪さそ力夜哉

其角

霞

霞とるそえく来風雲のりら哉

石口

朧夜

猿教と白酒豪の名流り哉

支考

春月

清水のうらうらきり春の月

許六

雪解

古宮や雪汁うら獅子殿

釣雪

残雪

残る雪比良の管くさへり

正秀

雪間

艸莖と包む葉もぬき雪間哉

冬角

春雪

春の雪雨うらうらふかきあり

一笑

糸遊

糸遊のいとあそふちり虚木立

氷圃

春雨

春の弱き春の度とや春のぬ

荊口

東風

東風吹や浮桶並ふ沙境

野水

陽炎

陽炎をた夕日よみとたはあり哉

舟泉

長閑

のともや漆の昼乃生看

荷分

春日

春の日か念佛ゆるそ時寺哉

尚白

永日

春のそ日や油十木のゆるむ音

那那

春野

春の野色やまき蔓の強よほく

來山

春水

春の水あしく下へんゆるそ

鬼貫

春梅

青海や太鼓ゆるまらぬ春の春

素堂

春艸

色くは名もまらぬし春の艸

珍碩

若草

若草小知喜かまうや明うそ

所坡

蒲公英

まんぢうや春ともぬ宿の忘ま菊

山店

土筆

まじくと摘やははすはや土筆

玄角

藍臺

藍臺やうけそ人の取うめ成

嵐雪

薊

薊のこまり残さぬあさこり成

燭遊

莖

教神のすそれよとある世は成

李吟

菜花

裸子結菜のを瀆る日和り成

信昌

菊植

菊の名を忘れそまことと極ま危

生林

杉菜

麻島よ杉菜の生る下深う那

山店

蕨

一尺の蕨の弁や松擗

沾徳

芦角

川流や泡と休むふ芦の角

猿雖

萱

きり為そ萱をぬこる明春街

野徑

麥青葉

柔およき青葉のまほ嶺の形

仙化

鸞

うたがねをうたふまてより山路式

式之

鶯

うらひまの啼ととふる嵐の形

間指

駒鳥

駒鳥の眼乃さやと輝ける根式

傘下

雉子

世の中ハ何のほろしに雉子みま

卯七

鶺鴒

子や待んあまると雪のまのま

杉風

玄鳥

巢乃うちや身を廻りして親燕

峯嵐

雀子

巢をもちくく篠踏多申む雀うか

舟行

鳥巢

籠の巢の樟乃枯枝ふ日入るぬ

九兆

麥鶉

麦深さるを撲さる鶉の那

沾徳

雲入鳥

やふ鳥何と見はめて這入る

朱拙

帰雁

たら騒く今や紀の戸伊勢の宿

澤雉

凡巾

ひの巾とひくく渡る小川哉

舎羅

猫戀

家うまや月よ猫啼猫の恋

探丸

初午

青うまや初午とも命に命守

沾荷

彼岸

何とて彼岸の入り日人きとて

鬼買

涅槃

尾の子の尾よりありたる涅槃うら

彫棠

出代

出代や稚ふらぬるものもなき

嵐雪

藪入

藪入やおや海月表の酒の研

専吟

如月

きりくまやきりくまの名砂粒茶喰

浦之

寒食

寒食やその日ふあきくる佛遠

立吟

冴返

冴返るる神楽その後の星巨燧

泥足

焼野

焼野の焼野の辰や風の末

猿錐

獨活

うらみの毒やけしきも毒の底あき

山川

鹿落角

ぬき落しけりや廣那の麻の角

澤雉

椿

やまのつばきと見てもや椿の脈の穴

洞木

若緑

ひすまゝの道の小松やまゝ縁

涼菟

海棠

海棠や蛇の睡顔おも死とき

普船

木瓜

喜の舟や木瓜の筵乃鋪合

沾徳

木芽

たうんはくはくはくはくはくはくはく

露沾

指木

けしき柳唯をぬきても面白く

一笑

接穂

笹垣をぬききりてあきく接穂丸

起石

余寒

のこけーやきりのあまりも三十一

利牛

蝶

傘張の眠り胡蝶の宿りうふ

重五

虻

人もあてぬさ日をきき虻の声

星泉

蜂

蜂の巢の親いらいもあつものう

蓬雨

蛙

取はぬちりりうと涼む蛙のあ

丈艸

田螺

もの陰や田螺の空るまの俵

尺艸

蠶

うき胸を蟻のきき音もる糸の糸

曾良

蠶

うたおろはるの羽程ー成の蚕

陽和

種卸

種おろは儀よこころ小糖の那

其角

苗代

苗代よいそうぬ糸糸すうこ糸

子英

田打

宵折の始や小田のあつ起ー

意柱

畑打

勤くともんく圃うの麓うを

去来

白魚

白炙を焼くひ糸うを罌うれ

其角

小鯨

鮎の子のむすさまー滝乃音

土芳

柳鮫

妻の水と枯のあれ糸を柳鮫

嵐雪

彼岸櫻

彼岸とてひうん様の笑よりり

彫蒙

初

初櫻

初櫻布のうゝ毘瑠の隣り那

調柳

初花

初花は雛り傘そいましくし

長虹

茶摘

午時の見え来あしや茶摘唄

蚊足

弥生

糸角して卯の忌蒼弥生とら糸

山川

峯入

峯入の宮も草鞋の旅旅りか

宗因

上巳

桃の日や女使乃はきくし

琴風

雛

石女の雛よかしはくそ糸ある

嵐雪

曲水

曲水や菟の流るる清涼水

角上

園雞

猿夢もわらふとくし鶏合

舉白

潮干

登り帆の澄海を船まぬ汐干か

去來

桃

垣の桃結りれあうの盃の船

灸山

海苔

ゆゑや何よそむる海苔の味

其角

海雲

海雲よる苔海よをき旭哉

峽水

櫻

山さくさくははくとの匂ひうき

仙化

遅櫻

誰り母そ糸は珠数る遅櫻

祐圃

花

息嘆もむつとちある老木の

木節

梨花

馬の耳を不免て愛しし梨花の花

支考

酴醾

炬火小山吹落しし秋紅色

野水

岩榴

岨おめは津ししの株や蟻のよる

雪芝

春風

春風又帯ゆるもたる森奥の家

越人

別霜

ぬく病ははる影き葉の別は

千那

藤

誰り率郊婆室をる友の家かん

枳風

春暮

心くしよ山んそをのをまきの巻

鈍可

行春

ひまも知は教の所寺り那

野水

夏之部

更衣

衣く白をこのよはぬ洗うは

浴通

衿

まつ風やかうしし衿の肩いつ

常欲

綿貫

綿貫や松風すうり頃

野水

青簾

らぬ文よまきま六形さう簾うを

月下

灌佛

灌佛のそのは清ししお籠

尚白

花御堂

花御堂是飯の世りしめろや

行露

花摘

集はるや先り人ハ見の母

言水

夏

おもひも 蚊とあはれすこし夏百日

千那

短夜

短夜やそれ人あはれあそびなき

北枝

葵祭

葵草かきこころも半の角

言水

夏夜

夏のおや焚火よ炭火入ゆる里

且藁

子規

かききん滝より上はりきりか

文州

鳴鳩

やうくと出て啼時う深吉る

全

卯巷

卯の花の絶るあか闇の門

积風

牡丹

上糸の衣を舞やうり白をえ

支岱

杜若

あのはや門提てひこのたつと

信徳

罌粟

咲つ散花は深あさきまの圃家

傘下

紫陽花

あはれあめ下りあや飛鳥川

百里

葵

ま売よとくく里の葵うね

鈍可

燕尾州

あひこくふ海客の来ぬ日ハあうり危

西吟

百合

叢や百合を中く美の歌

半残

茨

美しく人よえくく茨の毒

長虹

菱

ひー咲て雅矣服見え入深

乙州

骨蓬

河骨よみのころれり流れうか

英水

藻花

渡りゆく藻の花歌く流り

凡兆

萍

うきまや舟りしとまぬ釣の糸

北枝

藻川

一嵐吹ぬのう福りや藻川舟

氷花

瞿麥

あししこのあはれか人て娘そ

越人

夏菊

夏菊や小菊の白く新まらぬ

策兆

筳

そくたのゆるらうらゝききより

塵交

豇豆

うらうらや小菊よ動るはるは

陽和

釣鐘

花やのし物かひまも忘るすも

涼菟

茄子

市小菊のさぬく形くそら茄子

蝶伽

覆盆子

よとの魚てる上よ摘しいとけ

千那

菰花

管の花や泥よまぬまし骨のぬ

鈍可

芍薬

芍薬や二車おと八荒もさけ

杜若

葱

あしししき釣籠よかろ葱うか

卜枝

麦

麦の穂よこかられりや小山伏

才磨

葉撰

狭延の庵りぬあしき葉撰火

山店

麻 表も也 盲麻刈 霧の玉 傀市

青嵐 喜あり 定る時 苧の色 嵐雪

若葉 浴して 露染る 夕暮る 鈍可

茂 ひろと ぬるの 山の 茂る 去來

若楓 わの 楓葉 色は ぬるも 曲翠

桐花 相の花 世間 眠き くらあ 嘯花

柿花 此中 濃古 木は づれ 柿乃 此筋

棟 人遊と 棟の 忌や 村乃 もの 次我

橘 魚橋や 定家 机の あり 處 杉風

青梅 うまう くら 系 隠る 梅の つつ 杜國

合歡 船棧の 妻乃 唱哥 合歡の 花 千那

筭 竹子や 兎の 断の 美しき 嵐雪

若竹 一枝は ます 形さ 竹の 美 仙化

夏月 市中 暮る 夕の 白ひや 夏 凡兆

夏山 嘯の あり 静なる 季 夏乃 山 所水

夏野 巡礼の 持本 あり 夏野 重頼

夏木立 山伏や 夏ゆつとよき 夏木立 鈍可

雑夏 卯のふや 折ての 後あつと 表 不知

木下闇 下闇や 地虫あつと の 蟬の 夢 嵐雪

昼寐 江戸を 夢と 田舎の 竹の 真寐は 可曉

松臭 赤糸の 糸 纏白く 居る 那 言水

鯨 旅人よ 鮎を ぬく 扇あつと 横几

川狩 川相や 人め しま ぬ ゆく 螢 几右

鹿子 矢の 下よ 母の 乳を のむ 鹿子か 立志

鹿茸 亭立ぬ ぬひや 鹿の 袋角 かく

火串 多よと 出る 火おそ 火串は 土芳

螢 傘を たつと して ちと ちと ちと 舟泉

夏虫 叢へ のろろ ぬく のろ 夏は 虫 如流

蝸牛 批祀の 象や こん 角あつと 蝸牛 其角

枝蛙 雨蛙 芭蕉よ のろと 戦さ たり 全

蝙蝠 のろちと ちと ちと 顔出 け 蒸格子 荷分

蟬 虫あつと や 居る ちと ちと 蟬の 夢 探志

蚊

面の書傘おろるよふ啼蚊の家 二水

蚊火

蚊火や 夏よとらぬ蚊ハいら川 彫棠

蛸

蛸屋ハあの産のうちの菴うを 琴風

紙帳

秋来や移んぬ帳と風と入るを 去角

端午

らふととそま流し馳ん古を 沾徳

菖蒲

角捲て牛のきほいや菖蒲州 一境

幟

茶馬の上堤のめらうや帟幟 胡及

粽

久もあくはよもたう 粽み祀 嵐吉

競馬

くくへる科の科や負給と 周來

印地打

年ふらと人の吐くや平地步 溪石

入梅

ふの御白き紙梅西のあうり水 春中

五月雨

五月雨や何を業よ波淀の人 鞭石

五月闇

きとくや窓よ下弦うく五月闇 探志

田植

晚鐘や田唄の届く里向舞 観水

早乙女

早乙女よ弦ひてぬらん笠の弦 園指

早苗

見てけや早苗のこころ 里の蔵 言水

青田 國中や青田にうへの雪の歌 許六

秋雞 くの素啼て井をかくるをなむ 河泥

芦雀 けり子啼や秋川の笠をん 土芳

翡翠 川せりおのれうけよ成やせん 景道

水鷺 けり啼て神杉凍こ流の那 尚白

羽枝鳥 羽ぬけをこよや入毒の嘴津うい 溪石

鶯音入 音を入るまご鶯にぬここ那也 土芳

練雲雀 啼從ハ啼く終るは福と云雀 陽和

鶉 首をそ 鶉のけりなるも 早瀬のま 言水

鶉飼 あまのえ 經本ぬこけ 鶉川の 全

鳩巢 飛の背より多きよふ鳩の浮巢が 嘯山

氷室 老の齒のけりもとけりや氷室保 貞室

土用 是來か土用の入に人さるる 杉風

土用 笹蟹の仮名書もあると土用干 貞室

夏瘦 夏瘦も秋のうらみに 如雲

暑 日の暑 鹽の底を 蟻の那 凡兆

雲峯

麻乃城の赤くも末やまの峯

史邦

水無月

水無月や鳥の口より大蛇舌

涼雲

白雨

夕立や鐘の音も夕日の夕

史邦

涼

月涼し浮洲のうへの雑魚競

去來

清水

玉笹の二姉三節清水うか

園女

風薫

風薫るもくまの下の石を

轍士

心太

松の葉をまきと交りり心太

秋坊

簞

舟のり漕のこもくまの舟より

露底

扇

扇先弦のわさかごとかきりり

丹所

團

魚のふるきもあまの流うら

馬寛

蓮

あまのくまの蓮の蠅退せ

良昌

荷葉

蓮池乃深き水も浮葉うら

折兮

旋花

いろ影よあたらき蟻乃日影

且只

壺盧

夕顔よ山伏るれは暑くも

專吟

帷子

帷子跡きよき何のあすけを

氷花

夏衣

嬰兒や出頃歩りあつ衣

尚白

汙拭

扇折いりふ持しき汗ぬら苑

千那

祇園會

月餅や思ひの影の薄糖ひ

文中

祭

縁くまきそ祭の牛のあまふ

扇雪

瓜

高人結ふゆいもくも危二毒瓜

湖月

御拔

年の務乃半とらね茅の橋水

翠紅

秋之部

立秋

初々くと木結葉初て秋の立

鬼貫

初秋

惟笛る布ふらうまる秋の露

由之

七夕

酒をどと形くして酒吞星今宵

去来

銀河

高秋中やあまかきりたる天路川

嵐雪

鵲

鶴や石をあまの橋もあま

其角

燈籠

燈籠の形き暮人よたうまえ

一笑

高燈籠

高燈籠昼かよめうたねたう南

千那

迎火

迎火也 獨りものりふ松うもと

一映

迎鐘

おの等々物とありてや 迎鐘

嵐雪

施餓鬼

おのくや門もくありて 施餓鬼

荷兮

墓祭

月々人も今人孫子や 墓祭

去来

蓮飯

月々年終人もあつらふまつら

雲口

麻箸

似合へやふ髪ふかけく 麻箸

一髪

胤尾中

年々くやふ我々もささき 胤尾中

梅氏

生身鬼

せめて魚の骨撰るのこを 生身鬼

方山

盆月

盆の月痛くもつと 打り

野坡

送火

送火やうへ 送火の務

史邦

花火

あつたははさりと 思ふ火

神寂

踊

里踊火や 伝説と かな

安之

相撲

都ふも 伝説と 角力取

去来

秋風

仇一也 蛇の衣吹 秋の風

野童

初嵐

鶯の尾は 伝説と 初嵐

荊口

暴

露

霧

稻妻

虫

蜻蛉

結翼

窟馬

のまじりて東を海に形かや

るの露や秋の那芝の起あぐり

宵言や露の音に死を鳴海深

稲妻や蜺売をく群の匂ひ

蒼きよの鶏追んびの音

きぬや蜻蛉は方け終帰る

結翼の音たよ枯る霧の音

かうろきや舞て追やる窟の上

猿雉

去来

其角

卧高

玄梅

惟然

如行

孤屋

蝸

蝸螂

松虫

鈴虫

秋蠅

秋蟬

秋蝶

蝨

日くしや山田を落る水の音

蝸螂のむしよ狗の音さうの

松虫の啼秋の松の匂ひの

鈴虫の啼をうふらるるの

秋蠅の翼小巻あまるる秋の

秋蟬の売よるひて死る秋の

秋蝶の木よ吹寄るまふ秋の

蝨の下小まるや蝨のちり

諷竹

史邦

沙明

桃妖

昌房

丈中

舟泉

カ

七

蟋蟀 草の葉や足の折るきりく 以 荷兮

柳散 露の影も移る影やちる 柳 土芳

和葉 香かぬ相の一片や 蕭の夢 玄角

木槿 笑ふも泣くも似る木槿は 嵐 嵐

雞頭 鶯頭ハちとのかきぬ盛々那 嵐竹

女郎花 夢の影へ一絲いぬる香の姿は 濁子

薜 階形の薜 井小つーり 鳴歩

秋海棠 秋海棠秋をささるの市は 琴風

萩 葉外よそれうおめひの萩乃 李由

萩 人も受け西戸はらる萩の夢 雪芝

野菊 名もあぬ小畑花咲那菊は 素堂

芙蓉 征の音よ夕露あふは 芙蓉 呼人

蓮実飛 蓮の葉も風中ものくさき 百里

蓼花 露の跡もあふささいや 蓼の花 其角

葛 西陸や強のささるるす 葛 嵐竹

芦穂 一とくも 芦の穂あせ 井堰 防川

蘭	芒	尾花	番椒	荅野	草花	芭蕉	葛
学東の書や角ありもよる野牛	五へ切て帛燭をよる芒う南	行房り尾花不れ不粘の子は	石臺を破る根よるや角うじ	山伏の切火をちりしは石野	草花秋ありと秋不持あり	こを破壊へ破る後の風あり	何となく地を這ふ書もの衣なり
桃隣	荷が	李下	野坡	全	全	依之	越人

蕎麦花	木綿	西瓜	瓢	零余子	八朔	三月	月
きれ摺也夏秋をたると蕎麦花	弾の子小木強と交る法砂は	青折や死瓜の下死去亀	昼中の藪よる瓢の那	端崎の起て落きるぬうこは	ハ初や女奏者のまらり後	三日月よ蕎麦の天窓をからり	おろくとむ之を月の湯光は
素堂	ト枝	素人	沾圃	為有	沙葉	之道	智月

待宵

まの宵を先炭さそへや年の初

牧童

名月

名月やと宵生るる子もわん

信徳

既望

いさよふやたしるる空の色

去来

后月

後の月たそへる空の巻るるん

越人

駒迎

一戸や衣破るる駒せりる飛

去来

放生會

尾を振るかまへる猪り放生會

季吟

初潮

まの汐や網曳る所の帆り船

嵐策

稲花

買て月夜も稲花や稲の花

露川

稻

稲の香や虎落のうらたは涼

雷得

早稻

早稲の香や田中稲舌の人出入

曲翠

晚稻

狼子ぬ頃さるる晚稲の那

支考

落穂

籾の卵さるる落穂の那

其角

案字

いの喜ひとらと倒るる案山子か

九兆

鳴子

谷越り鳴子の籠や窓のうら

大中

引板

夕雲此暮るる暎方や引板の香

路通

添水

されくは添水の籠も不敵の家

虚谷

鳥驚

あふ驚やおとろけりよるのあり

一酬

落水

秋もろや落しなるあめひ来り

昌房

落難

落難のるふあまきく渡しよ

一桃

秋作物

梁圃に奥まて赤き入日り如

空方

新酒

豕まじし新酒人の碑やまき

嵐雪

鶡鴒

鶡鴒や僅赤くむ袖のうら

際永

鶡鴒

牛呵るあり鶡鴒立夕暮り那

支考

鶡鴒

消るその鶡鴒根に啼うつる

五芝

木啄

木啄きみの入まらうらう藪のま

丈中

鶡鴒

せこまのやまはと矢る白川原

水因

鳩

寂しき鳩吹習ふわをうま

野水

鹿

列し鹿死す笛する太山の那

道牛

菌

茸猫や繫けるるよのあまの那

全峯

松茸

松茸や夢よとあまのあまの那

孤屋

初茸

初茸や培ふ津あまの一盞

沾圃

柿

淡柿と藪の中よと山のまら

呂風

栗

ささ栗の吹流くさく 飛波

立路

團栗

空栗や去秋の逢く 窪溜

杜年

椎

推捨ふ人遥かき 夕潮

夕潮

木實

珍らき木實ふ交る麻の聲

李由

重九

落栗の穂あもとも 観水

観水

九日

余の菊よまもく人却るもく 和及

和及

菊

ふ菊結あつぬそあ 昌碧

昌碧

残菊

そ菊まきしときのみ 素堂

素堂

擣衣

芦の飛折灯しゆけ 立志

立志

露時雨

牛賣て酒さくそ 北枝

北枝

秋雨

ぬし雨木あまき 尚白

尚白

紅葉

小男小かきけあ 秀和

秀和

秋夜

秋の夜や下き 好春

好春

長夜

去き秋と旅多外 去來

去來

夜寒

ぬし雪結猶し 畦上

畦上

鷹

ふせふ鷹のまき 其角

其角

秋暮 行秋 秋雲 藻 渡鳥 鉅 末枯

傍のひる繩の簾也 秋のくれ
り秋よるる形も形き捨り如
新株や名田のうへの秋のき
うさるる魚の細やう津を築
秋風や天窓のうへを渡る
啼鳥をすて喰まぬ鉅うま
う枯やるも餅喰ふうたの山

不炊 杜年 酒堂 文州 去來 一口 其角

冬之部

初時雨 時雨 志卷 口切 爐潤 炉 火桶

初今よるい杉木葉を川 時雨
天地のゆきとけり、時雨り如
志まき日残おもひこひる船旅は
口切やあう 他は枯 瓢をこし
炉ひきまきも基目と函ふ柄杓の類
炉を歩くまき月を面白く
火桶抱て瀬橋をかきしむる

荆口 湖春 松芳 木導 其角 野水 路通

火鉢

ひらき居や志く火鉢も数事此依

秋色

巨燧

侘しき数恙と熟く巨燧式

挑志

炭

うらみ糸よえうぬき炭のうらみ式

戦竹

炭竈

炭竈よ手あひの猪の倒き免

光兆

埋火

うらみ火や灰の落入る朝朗

班車

櫓

炉をぬく令津まきし櫓の蟻

荷兮

十月

十月やうらみくまきし櫓の蟻

幽也

神無月

徳の居る形中櫓の神無月

山店

神送

此里の牛子あうまけ神送

卜枝

神苗主

月もあふ守ちあうま神の為え

李卜

小春

空粟子小春小落る深山うら

言水

達磨忌

あうらまきやあうらまきと根来椀

竹良

十夜

淡柿とあうらあしてあうら十夜式

路通

御影講

御影講や紙衣のうらの麻袴

買魚

御取越

あうらあうらぬきあうらあうら越

芭字

蛭子講

あうらあうらあうらあうらあうら

去来

神迎

何と形く黒きものもや神むく

如琴

顔見世

顔見世や曉いさむ下郡の橋

其角

吹草祭

作山よ吹草祭はあし器

李由

冬至

けあの小窓も枯れ冬、至る那

九兆

風

木々々々二日の月は吹おろ

荷分

冬木立

萱の家のはりおを形りる冬木立

琴風

冬山

鶉の糞は白き梢や冬山の山

素牛

冬日

冬の日よ下りてくぬるは鶉の羽は

友五

冬月

霧のふもそ猿の歯を岩の丸

其角

冬夜

何と形く冬夜燐をさるれり

全

冬籠

冬籠秋昼作は嵐う那

杉風

冬構

古寺の篋子も青く冬をま

九兆

寒椿

いつあま〜鹿おこせハ室津をき

亀河

枯菊

色くくの菊一冬年 枯れおり

柳水

寒菊

冬菊の色を何ふきくはの家

湖風

枯芒

小坊も旅人おれや枯れ葉

配力

水仙

水仙の姿乃きくや花を

惟然

茶花

木樨の柔の花由ふり

猿雖

石路

破き家の石路に顔出

諷竹

帰花

帰花それともこのん

其角

茶山花

山茶を小媒を啼き

言水

枇杷

農明の穀すともや

宗乙

冬牡丹

冬牡丹定うらむ

文中

木葉

大いこの木葉は

杉風

落葉

蓑虫の寝い乃葉と

玄梅

枯柳

何れもさるふもの

涼菟

蕎麦刈

蕎麦刈やを高く

素竜

麦蒔

麦蒔ておの麗

昌碧

大根引

今やうもあつぬ

風國

干菜

釣そめしその夜

一峰

葱

葱のりや昔々

兩橋

燕

燕の羽のぬふ

蕉笠

霜 霜夜 霜柱 千鳥 水鳥 野鴨 鴛鴦 鷓鴣

霜の初梅権乃実のあやきより
一色も初くそのあきよお夜戎
霜をうら巴うめけしや 亀
脊戸はみ入はよのあき千鳥より
あきよの深きやいつこ深きとあ
あきとあ鴨啼早きの林の家
あき啼くあ深き水る 九条うね
あきとあ水の下あかかあ深きと

杜國 野水 圃仙 丈中 楊裴 才磨 雷虫 柴車

鷓鴣 鷹 暖鳥 木兔 追鳥狩 冬蠅 花臍魚 空鮭

鷓鴣の白を養うそふそそあきとあ
あきとあああああああああああ
あきとあああああああああああ
あきとあああああああああああ
あきとあああああああああああ
あきとあああああああああああ
あきとあああああああああああ
あきとあああああああああああ

依之 冬市 丹丘 茨境 一峰 史邦 雪芝

蛎

まらまらや 蛎の殻は 賢く 梅の香

嵐雪

夜興

かめしきく 夜興の火の 競うか

氷花

河豚

ゆけけや 米買あとう 飯まら

檀泉

鱈

かた箒を 籠りまら 山海式

和重

生海胤

尾段の心 見えまき 生海胤多

去来

鯨

船繋くく づら 鯨はさ

野坡

綱代

静さと 珠数も おもえ 綱代吉

丈中

昇

ゆはまや 波るまら 巻巻

卯七

寒

明家 梅子うま 寒く 籠

桂之

寒中

秋吐も 脾胃の 清くまら 寒の中

千川

寒声

重しや 出衣村 乃あう 清く

仙秋

寒垢離

まらまら の 肌白く とき 衣さよ

路通

臑

あつちや ちよと 梅の 旅衣

氷花

薬喰

活んと せしらす いふ 業くらひ

支考

納豆

毒の 枕は 寒く 納豆うめ

汀芦

紙衣

皮まら 皮の 衣の 切を 懐らり

丈中

雪吹	震	雪	初雪	湯婆	足袋	衾	頭巾
引く多しりや雪吹かき雪塵	つゆり傘とむと我れぬ	急くとつと折や雪の門	初雪や人のきらんハ朝のうら	岳乳女の湯沸めやらん鐘の声	古足袋の甲よ豆とふとあぬ	河草も鳥入るまこと成巾衾	隠道家や片耳をきて角巾
去来	斧鉄	去来	桃隣	嵐彈	嵐雪	小春	蝉吟

氷柱	櫛	櫛	氷	凍	神樂	寒念仏
岸よあつと離のけらうら	いとるの櫛のなもらきせう那	は多うら後る櫛のうらやたが	枯芦よ氷と残ひ秋吹うら	凍は多ハ凍付けう篠の凍	安んぬ哥も妙と神のうら	晚乃篠波よまのや寒念仏
虚吟	道達	舎帖	野童	秋坊	利堂	其角

鉢扣

鉢きり死名ハ顔又似ぬとのり

乙州

臘八

臘目おも沙走八見此をきし

杉風

御佛名

軒かく清志罪あき御佛名

落桐

煤拂

煤とくして寺八目出度佛のか

不卜

節季候

目よかると事やとや節季候

一洞

師走

山依の足事よ出立沙をうぬ

嵐雪

餅搗

餅搗や火せかあてり男部を

岱水

年忘

年忘盃より桃をのむをうしむ

洒堂

曆賣

古曆やき人うまのりせん

孤屋

年市

年の市何物もこの山歌人

魯尚

豆糺

豆糺うの事ゆ中なる笑ひは

其角

年暮

獅の尾で捲て立るとり

正秀

衣配

文箱の先捲振見る衣ふり

曾良

岡見

岡見とと妹法とらぬ小歌の門

嵐雪

待春

待春や机と捲ふ書紙小口

浪化

行歳

以年よ系へと如く状を

湖春

大年

大中之や親子儀の所しるひ

万年

江戸本石町十軒店

萬笈堂英平吉藏

其角發句集

二冊

嵐雪句集

二冊

蓼太句集

六冊

俳諧文集

蟹守大人輯
高村言名の俳人の文珍輯

二冊

發句古今撰

同輯

附葛里連句集

三冊

俳諧新五百題

護物大人輯

二冊

新五百題 後編

同輯

二冊

發勺類聚

蓼松大人重校

二冊

發勺類題

雪中菴火人輯

二冊

發勺五百題

白雄房撰

二冊

俳諧恋の土のり

律雪庵北元大人輯

二冊

このあそびは是迄季まのよ恋の類あるふよりて
恋の類をとり集む

俳諧多炔灯

季まの書と

二冊

袖のり

季まの懐中小本

一冊

俳諧四季名奇

懐中本落葉と撰
季ま大成あり

一冊

俳諧季まの便覧

懐中一枚摺

萬葉用字格

春中上人撰
万葉集ののり

一冊

定家卿の形巻

一冊

今古の形を

喜井八穂大人輯折本

一冊

尚古の形を

山本明徳大人輯折本

一冊

対照の形を

若波の大人輯折本

一冊

音便撮要

喜望上人輯懐中本

一冊

子島の跡

中臣親満大人輯

一冊

此の書と色紙短尺の書とをばも懸然
ちらひはち人の書と筆よりうらうらうら

